

vol+4. 『着る』SDGs！

つくる・つかうものってたくさんありますよね。中でも今回は「着る」に注目！「着る」のさまざまな切り口から、ものを大切にすることってどういうことかぜひ考えてみてください！



貴重な衣服と一緒にパシャリ！



中学時代は国語便覧が大好きだったとのこと！（写真手前が国語便覧）

SDGsは、良いまちに向かうためのみちしるべ。市内のSDGsの取組を、SDGs取り組む方の「顔」が見える形でお届けします！

古いことって古くない！昔のことからいろいろ学べるんです。

愛知文教大学

市東部にある大学。今回は、平安文学・日本服飾史・有職故実を研究している、人文学部人文学科の畠山大二郎准教授にお話を伺いました。

この道に進もうとしたきっかけは？

中学の国語で習った「竹取物語」で古文のリズムや美しさを知り、高校に入ってから図書館で古典文学をたくさん読みました。貸出カードにいつも名前があるライバルがいて、それが自分の高校の書道の先生だと高3になって知りました（笑）。卒業後は地元で働くつもりだったのですが、3者面談で大学進学をすすめられ、この道への一歩を踏み出すことになりました。

伝統的な衣服の魅力とは？

オシャレで工夫や理論がある点です。例えば、不思議な形をしていても着るとオシャレなんです。また、手仕事でできていて、着付けが必要であったり、自分で直すこともあったりと、服を着るまでの過程の中に人や自分が関わることも魅力です。

若い皆さんに伝えたいことは？

昔のことを知ると、今の考え方や常識、倫理観とは全然違うので、現代の固定観念から自由になれると思います。私も、思春期には悩みを古典に助けられました。



リユースの仕組みを、地域のコミュニティーづくりにつなげたい！

これから取り組みたいことは？
店舗の一部を使ったりして、小さい子のママ達がお茶しながら話せて、こどもも遊べるような、コミュニケーションの場づくりに取り組みたいですね。また、寄付いただいた不要な絵具セットやノート、鉛筆などの学用品を無償で必要な方にお譲りする取組を現在行っているのですが、ゆくゆくは譲渡会などもできたらいいなと考えています。

自分が育った桃花台に恩返しをしたい、とも語る谷中さん。



古着ファッションショーの様子

今後の団体としての展望は？
みんなが社会に興味を持って、自分やまわりのために動く人が増える仕組みができたと思うので、そういうきっかけを作る団体になりたいです！

さくらや小牧店



取り扱っている学生服とパシャリ！



素敵な笑顔でインタビューにお答えいただきました！

学生服リユースに取り組むさくらや小牧店店長の安江千帆さんにインタビューしてきました！
さくらやはじめたきっかけは？
夫が話を持ってきてくれたのがきっかけです。実は10年位前にさくらやをテレビで見て、こんな活動あるんだな、素敵だなと思っていました。夫は私がさくらやのことを知っていることを知らなかったで、本当に偶然です。

取組の特徴は？
本当に必要な方に販売するために、購入される方に学生証とか、その学校に通うという証明を出してもらっています。

SDGsもファッションも、だれかに「夢」を与えるきっかけ！

Dream



平均年齢20歳の、若者市民活動団体。SDGsを活用した事業を行っており、最近では古着ファッションショーも開催！代表の谷中香音さんにお話を伺いました。
Dreamの団体名に込めた想いは？

「夢」ってすごく素敵だと思っんです。なのに同世代の子たちが、理想はあるのに諦める人が多く、もったいないなと思っんです。子どもや若者に夢を見つつけるきっかけを作るため、「夢」を少しカッコ良く（笑）、英語の団体名にしました。

なぜ古着ファッションショーを？

私自身、芸能活動をしており、自分たちの特技やツテを活かしたイベントとして案が出ました。SDGsに興味を持ってもらうためにも、自分たちで服も作るうと。テーマを「ジェンダー」「環境」「伝統」と決め、モデル自ら好きなテーマを選び、デザインを決めていきました。ファッションは、ステージに立つて誰かを笑顔にできて夢を与える手段でもあるかなと！

「住み続けたい・働きたい」そんなまちの実現を目指してー

kaomik (カオミク) は、SDGsの視点から『こまきの人の魅力』を中高大学生に伝えるフリーマガジンです。お互いを知り、つながることができるきっかけとなれるような素敵な情報を、小牧市内外を問わず広くお届けします。

今回ご紹介した方々のもっと詳しいインタビュー内容や、kaomikについては右のQRよりご覧ください！

